

平成 29 年 10 月 2 日

京口門だより No. 48

10 月の声をきくと、厳しかった残暑もわすれ、さわやかな秋の気配を感じます。「窯を出づ壺のひびきに秋澄めり」(上野ひろし)

最近是不妊症で漢方治療を求めてこられる方がおられます。しかもやや高齢になってから子供を望む方が多い傾向にあります。子供が欲しいができないという悩みは切実な思いですが、不妊というのはさまざまな状況によって起きていることで、女性ばかりに責任があるのでなく、3分の1は男性側にも原因があるとされています。ですから不妊外来では必ずご夫婦ともに検査を受けて調べることをします。ある体格の堂々とした空手家が、実は男性不妊の原因であったことがあります。外見だけでは判らないこともあります。女性の場合はまたさまざまな原因があり、婦人科的な診断のうえで、妊娠が可能かどうかを判断します。一般的には38歳をすぎると条件が悪くなるとも言われています。

現代医学では妊娠可能と判断されたら、タイミング法を始めとして、人工受精や体外受精(顕微受精などもふくめて)をおこなって、妊娠の成功を図ってゆきます。しかし何度も試みても成功しないこともあります。たとえば妊娠してもすぐに流産してしまい、うまく子宮に着床しないこともしばしばあります。

ある30代の女性でしたが、そのような流産癖があつて困っておられました。ある漢方薬を服用して流産しなくなり、続けて3人も出産された方がおられました。また子宮筋腫があり妊娠しにくい方は、大きな筋腫は摘出して、その後漢方を飲みながら人工受精で、お子さんを産まれた方もおられました。べつの方は卵子と精子に抗体反応が起きて妊娠できないという方がおりましたが、熱心に漢方を飲まれて2年半で無事女の子を産まれた方もおられます。高齢ではなかなか難しいと言われますが、なかには漢方をのんで40歳から続けて2人のお子さんを産まれた方もおられます。

こうしてみると不妊の方の漢方治療は、子宮や卵巣の機能やその条件を良い状態に改善して、妊娠しやすい状態を作ってゆくことに大きなポイントがあります。また不妊にはこの漢方薬が良いという決められた薬があるのではなく、その人その人に適した漢方薬を飲み続けることで、良い状態を作ってゆくことだと思います。また男性不妊に対しても有効な漢方薬があることも報告されています。

